

第3次大阪府文化振興計画

～ 新たな仕組みで花開く「文化自由都市、大阪」～

平成25(2013)年3月

大 阪 府

ごあいさつ

大阪府では、平成22年に大阪文化振興新戦略（第2次大阪府文化振興計画）を策定し、府民の自主性と創造性が最大限に発揮できる「文化自由都市、大阪」を目指した取り組みをすすめてきました。

大阪が、創造性の意欲に満ちた人々によって、まちの至るところで文化活動が展開され、また、自由で開かれた大阪を目指して全国や海外から人々が集まることで、地域が活性化され、都市が発展していく。これが「文化自由都市、大阪」のイメージです。

このたび策定した第3次大阪府文化振興計画は、前計画の理念を基本的に継承しつつ、さらに発展させることを目指したものです。そのため、芸術文化の専門家が文化施策の評価や企画、調査を行う「アーツカウンシル」の仕組みを新たに構築します。

これにより、文化の主役である府民やアーティストの文化活動がより一層活発になり、この大阪において多彩な文化の花が開くことを期待しています。府民やアーティストの皆様には、できるだけ多くの方に本計画の理念を共有いただくとともに、新たな仕組みにご参画いただければ幸いです。

終わりに、本計画の策定にあたり、熱心なご議論をいただき、貴重なご提言をいただきました大阪府文化振興会議の委員をはじめ、関係者、府民の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成25年3月
大阪府知事 松井 一郎

－目 次－

ごあいさつ

I	第3次大阪府文化振興計画について	1
	(1) 策定趣旨	
	(2) 計画期間	
	(3) 計画の構成（全体概要）	
II	目指す将来像	3
III	理念	4
	－ 4つの理念－	
IV	施策の方向	5
	－ 3つの基本方向－	
	－ 9つの施策－	
V	推進に向けて	15
	－ 行政の役割－	
	－ 推進・評価体制－	

I 第3次大阪府文化振興計画について

(1)策定趣旨

大阪府では、大阪府文化振興条例の制定（平成17年4月施行）により、府が文化振興に取り組む基本姿勢を明確にし、平成18年3月に同条例第6条に基づき「おおさか文化プラン（第1次大阪府文化振興計画）」を策定し、文化施策を進めてきました。

このような中、厳しい財政状況のもとで大阪の文化を創造的に飛躍させるため、行政の役割をはじめ大阪の文化振興のあり方を改めて整理し、平成22年3月に「大阪文化振興新戦略（第2次大阪府文化振興計画）」（計画期間：平成22年度～平成24年度）を策定しました。

「第2次大阪府文化振興計画」（以下「前計画」という。）では、文化の主役である府民の自律と創意が発揮され、自主的な文化活動が活発に行われるようサポートすること、また、文化資源や都市空間など豊かな文化的土壌を持つ大阪のポテンシャルを活かし、文化の力を大阪の活力につなげることを目指し、それに沿った取組みを進めてきたところです。

このたび策定する「第3次大阪府文化振興計画」においては、文化振興条例の趣旨を踏まえつつ、前計画の理念を継承・発展し、さらなる大阪の文化振興を図ることを目指します。また、「大阪都市魅力創造戦略」（平成24年12月策定）の方向性に沿って、府市共通の基本ビジョンのもと、専門家の知見を活用し文化施策の評価等を行うアーツカウンシルの仕組みを構築し、大阪にふさわしい文化施策を展開していきます。

(2)計画期間等

平成25年度から平成27年度までの3年間とします。

なお、社会経済情勢の変化等に伴い、計画期間内でも内容を適宜見直すことがあります。

【本計画の位置づけ】

大阪府文化振興条例第6条に定める「文化の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための計画（文化振興計画）」

（主な関連法規、計画等）

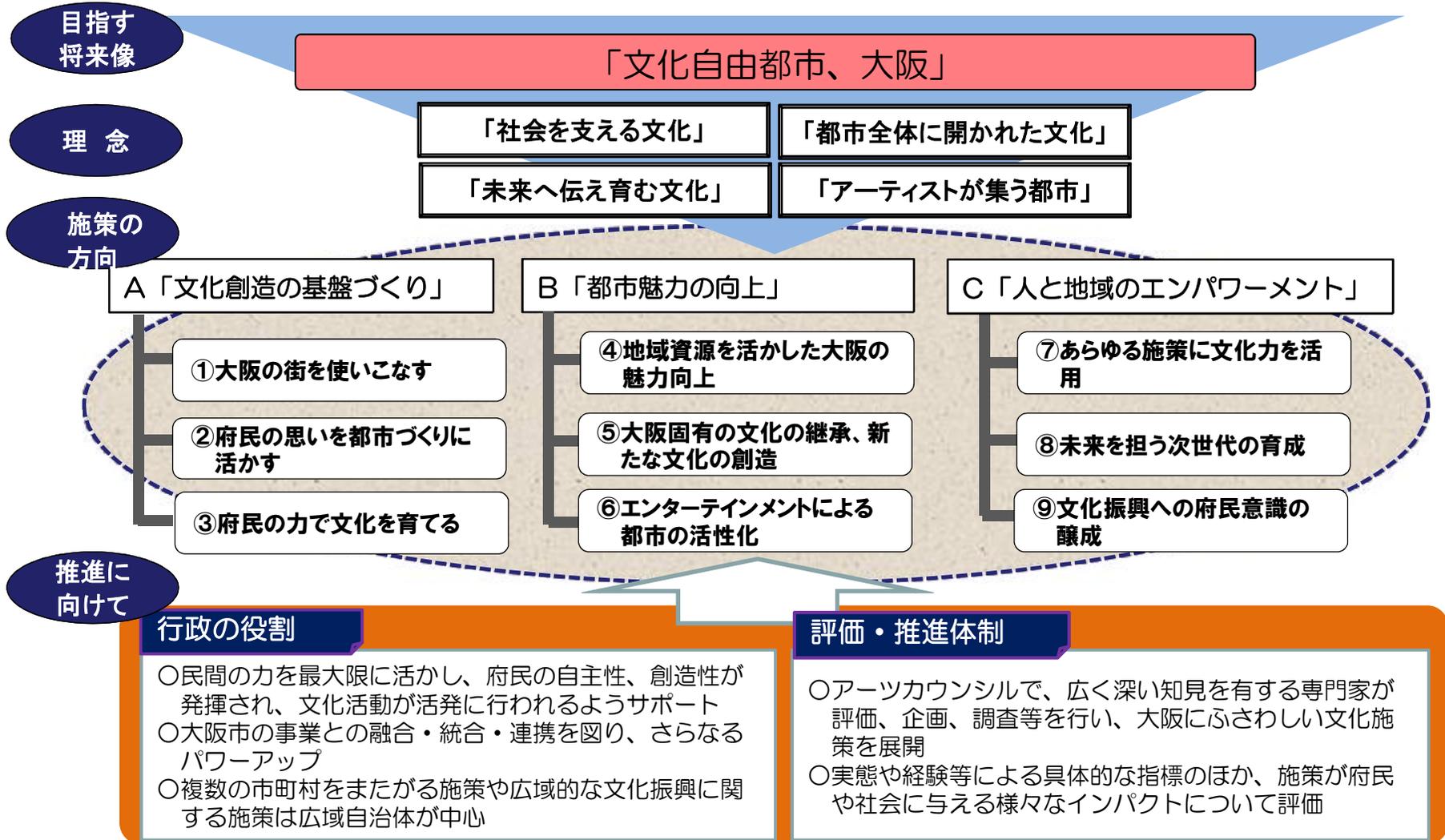
- ・「文化芸術振興基本法」・・・・・・・・・・第4条：地方公共団体が自主的かつ主体的に策定する施策
- ・「将来ビジョン・大阪」（H20策定）・・・・・・・・ミュージアム都市大阪の関連戦略
- ・「大阪都市魅力創造戦略」（H24策定）・・・・・・・・本計画の上位概念となる府市共通の戦略

(3) 計画の構成(全体概要)

第3次大阪府文化振興計画の基本的な考え方

前計画の理念と方向性を基本的に継承・発展させるとともに、以下の展開を図ります。

- ①大阪府市の共通ビジョンのもと、府市事業の融合・統合・連携、パワーアップを図ります。
- ②アーツカウンシルの仕組みを構築し、施策の評価・推進体制を強化します。
- ③文化振興への府民意識の醸成を施策の方向に新たに位置付けます。



Ⅱ 目指す将来像

大阪府は、府民やアーティストなどの自主性、創造性が発揮されるよう民間の力を最大限に活かす「文化自由都市、大阪」を目指していきます。

これまで蓄積された豊富な文化資源をもとに、新たなチャレンジにより文化が創造され、また、多様な文化を受容し、都市魅力として国内外をひきつける都市を目指します。

また、文化創造や都市魅力の向上が、観光集客や産業活性化をもたらし、寄附などの財源につながって文化活動をさらに活発にしていくような文化振興のサイクルの確立を目指します。

《「文化自由都市、大阪」のイメージ》

- * 「文化自由都市、大阪」では、人々が街角や公共空間など都市（まち）全体で創造的に活動します。
- * 「文化自由都市、大阪」には、新たな挑戦を受け容れる自由で開かれた場と機会があります。人々は創造する意欲にあふれ、子どもたちの感性は豊かに育まれ、その瞳は可能性に満ちた将来への夢や希望に輝いています。
- * 「文化自由都市、大阪」では、府民やアーティストなどの創造的活動が、都市に新たな可能性を生み、また、文化を通じた出会い・交流・つながりが人や地域を活性化しています。
- * こうした「文化自由都市、大阪」には、全国や海外からクリエイティブな人々がめざし、集っています。

Ⅲ 理念

「文化自由都市、大阪」を目指すため、前計画の理念を基本的に継承し、4つの理念を定めます。

「4つの理念」は、文化振興を進めていく上での計画全体を貫く、基本的な価値観、となるものであり、それぞれが目指す将来像でもあります。

これらの理念のもと、大阪府は、行政の役割として、人々の自律の精神、創造する意欲が最大限に発揮され、文化活動が活発に行われるようサポートします。

《4つの理念》

「社会を支える文化」

芸術や文化を保護されるべきものとして、主に継続的な補助の観点で行う従来の文化行政のイメージは、前計画期間中に転換されてきました。文化への投資が都市の活性化による経済効果や教育・福祉効果など新たな価値を創造し、社会を支え、経済を牽引するという観点を一層徹底した文化行政を進めます。

「都市全体に開かれた文化」

劇場や美術館の中だけを文化活動の場とするのではなく、大阪の都市（まち）全体で活動・発表ができるよう、「場」の提供を一層推進します。

「未来へ伝え育む文化」

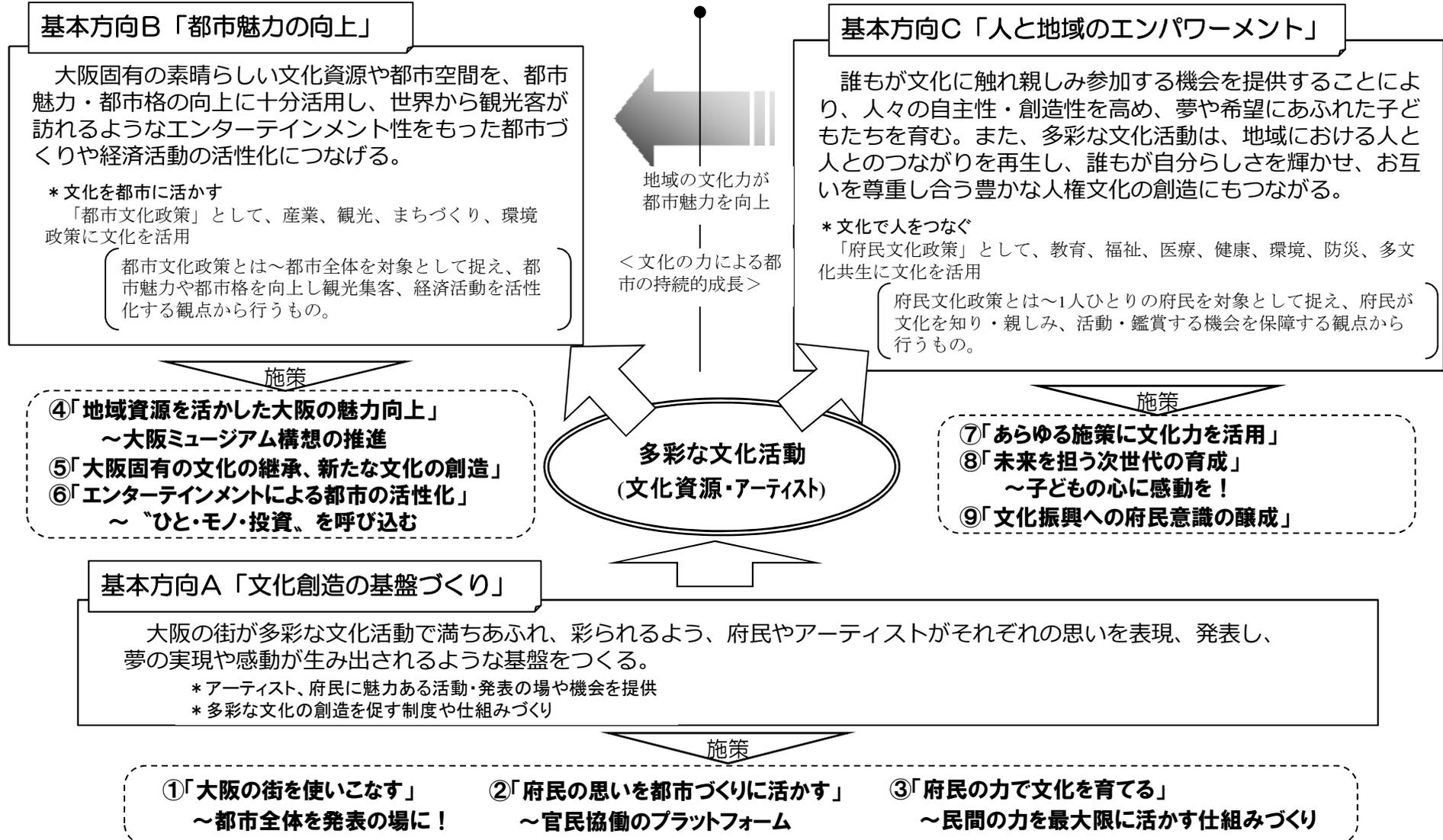
文化は先人が培ってきた伝統を継承し、発展させるものであり、「温故知新」の精神が重要です。今あるものを守り、都市格を向上させる資源としてアピールするとともに、それを礎にして新たな展開に挑戦していきます。常にチャレンジする志を受け容れ、新たな文化を育てます。

「アーティストが集う都市」

全国だけでなくアジア、世界からクリエイティブな人々（アーティスト、デザイナー、建築家、クリエイター等）が集い、活動し、住みたくなるような大阪を目指します。

IV 施策の方向

文化行政は、次の3つの観点（基本方向A～C）から捉えることができます。前計画同様、本計画においても、3つの基本方向をもとに、文化行政を進めていきます。なお、基本方向Cに、新たに「文化振興への府民意識の醸成」（施策⑨）を掲げ、9つの施策を展開していきます。



基本方向 A 「文化創造の基盤づくり」

①大阪の街を使いこなす～都市全体を発表の場に！

- 大阪を「全国や海外からアーティストが集う都市」「チャレンジできる都市」としてブランディングするため、府民、アーティスト、デザイナー等の自由な発想や思いを実現できるような活動機会を提供してきました。
- この大阪の「ブランド」を一層輝かせ、アーティストの活動や大阪の都市魅力を広く内外に発信していきます。
- そのため、「水の回廊」や「御堂筋」「中之島」などのエリアを最大限活用するとともに、府域全域の河川、道路、都市公園等の公共空間を、府民・アーティスト・デザイナー、パフォーマー等の創造的な活動を行う人々の魅力的な活動・発表の場として、その利活用の幅を広げていきます。



(おおさかカンヴァース推進事業)



(府庁本館活用事業)



(水辺の賑わい創出事業(水都大阪フェス2012))

②「府民の思いを都市づくりに活かす」～官民協働のプラットフォーム

- 「プラットフォーム」とは、府民、アーティスト、デザイナー、NPO、大学、企業、行政機関などが対等な立場で交流・対話を行い、協働して課題解決に取り組む手法です。プラットフォームに関わる人々が、自ら都市魅力の創造や規制緩和などの課題に取り組むことにより、府民が愛着や誇りを持てるような都市づくりにもつながります。
- アーティストやデザイナーの交流・活動拠点として整備した、大阪府立江之子島文化芸術創造センター（enoco）のネットワークを最大限活用しながら、プラットフォームの機能を一層充実させ、都市づくりの課題や規制緩和等の取り組みを進めます。
- さらに、プラットフォームを活用した取り組み事例を広く発信し、その手法の定着を目指していきます。



(プラットフォーム形成支援事業 ワークショップ)



(プラットフォーム形成支援事業 木津川遊歩空間公開プレゼンテーション)

③「府民の力で文化を育てる」～民間の力を最大限に活かす仕組みづくり

- 大阪の近世以来、町人など「民」の力によって文化が育てられ、盛んになりました。民間の力で文化が育つよう、文化振興に一層寄附しやすい環境や制度づくりを進めます。
- 既に、利用額の一定割合が文化振興基金に寄附が入る「メセナカード」や、清涼飲料水の自動販売機の売上げの一部が寄附される「メセナ自動販売機」の取組みを、民間事業者と提携・協力して実施しています。これらの取組みをより効果的にPRし、「みんなで大阪の文化を支える」意識の醸成に努め、一層の普及につなげていきます。
- さらに、民間の自主的な文化活動を促進していくには、寄附のほかにも様々な支援の手法を検討する必要があることから、専門家の見識を活かし、民間資金の導入・活用方策を検討していきます。また、寄附者の文化に対する思いを施策に確実に反映できるような仕組みについても検討していきます。



(メセナ自動販売機)



(メセナ自動販売機には、上記の表示シールを貼付)

基本方向 B 「都市魅力の向上」

④「地域資源を活かした大阪の魅力向上」～大阪ミュージアム構想の推進

- 生活文化、地域文化が生み出す文化力は、“生活文化の匂いがするパワフルな大阪”、“感性を刺激する大阪”に、広く内外から人をひきつける都市のパワーになると考えられます。
- このためには、地域性、テーマ性、季節性を重視し、歴史、地理的特徴、まちなみ、人々の営みなどに根ざした地域資源をまちの魅力として再認識することにより、府民の郷土愛・誇りが育まれることが大切です。
- 大阪のまち全体をミュージアムに見立て、大阪の魅力を発掘・再発見し、磨き・際立たせ、結びつけ、内外に発信する「大阪ミュージアム構想」に取り組んでおり、府民をはじめ、市町村・企業・地域団体とともに、魅力ある地域資源を活用し、大阪の魅力・集客力・地域力の向上をさらに進め、広くそれを発信し、『「明るく」「楽しく」「わくわく」するまち・大阪』の実現を目指します。

* 大阪ミュージアム構想 ミュージアム登録件数 1, 230件（平成25年3月）



(浄るりシアター[能勢町])



(大阪薪能[大阪市])



(だんじり祭り[府内各地])

⑤「大阪固有の文化の継承、新たな文化の創造」

- 大阪ゆかりの文楽など伝統文化は、都市格を向上させることができる世界的にも貴重な財産であり、都市魅力を発信する上でも極めて有意義な存在です。グローバル化が進む中でこそ、大阪のアイデンティティを一層確かなものにしていくことが大切です。
- 大阪のアイデンティティを磨くためにも、こうした文楽をはじめ、伝統文化を担う人々が活躍できる場や多くの人々が触れることができる機会をさらに多く提供していきます。今あるものを守るだけではなく、世界にチャレンジしていくという担い手の志を活かし、大阪、関西のすばらしい文化をアピールしていきます。
- 国内外の人々にとって魅力ある大阪の文化を観光資源として活用し、その魅力を発信し、文化の鑑賞や体験などの工夫により幅広い集客を図ります。また、観光集客により経済を活性化し、さらなる文化の魅力創造へつなげるサイクルを創出します。
- 大阪の庶民文化そのものと言うべき上方演芸について、大阪府立上方演芸資料館（ワッハ上方）が担ってきた、貴重な資料を収集・保存・活用する機能は、公の役割として維持し、より効率的・効果的な運営をしていきます。大阪市をはじめ市町村、大学、企業等との連携を進め、多くの人々が貴重な資料に触れ、親しむことのできる機会を提供するとともに、学術研究にも取り組むなど、新たな展開を図ります。
- また、大阪が世界に誇る貴重な歴史遺産である百舌鳥・古市古墳群を人類の宝として確実に未来に継承し守るとともに、歴史と文化を活かしたまちづくりを推進するため、世界文化遺産登録に向けた取組みを進めます。

⑥「エンターテインメントによる都市の活性化」～ “ひと・モノ・投資” を呼び込む

- エンターテインメントは人を元気にし、都市を活性化させる力を持っています。また、良質なコンテンツは、都市を一変させる観光資源ともなり、大きな経済効果を生み出します。
- 専門家の見識を活かしながら、エンターテインメントによる斬新で挑戦的な取組みや、民間が先導している付加価値の高いプロジェクトを戦略的に誘導、サポートするとともに、食やアニメ、スポーツなど多様な資源を都市魅力として活用し、大阪に、ひと、モノ、投資等を呼び込みます。
- 大規模ホールは、世界中のアーティストのサクセスストーリーの頂点の場、芸術文化にあこがれる子どもたちが夢見る舞台となります。官民の役割分担を明確にし、民間の力を引き出して、適切な立地誘導に努めます。



(第2回大阪マラソン)



(中之島フェスティバルタワー)



(2013食博覧会・大阪)

基本方向 C 「人と地域のエンパワーメント」

⑦「あらゆる施策に文化力を活用」

- 社会のさまざまな課題を解決し、地域を発展させるためには、文化のもつ創造性や、人と人、人と社会をつなぐ力が、新たな原動力として重要な役割を果たすと考えられます。このため、文化の力を教育、福祉、雇用、まちづくりなどの施策に活かすことが求められます。
- 府内でも既にアート系NPOやアーティストたちが、地域に根ざしたまちづくりや社会的弱者である人々の自立支援に関わるなど、文化を通じて社会に関わる活動が広がりつつあります。大阪府のあらゆる施策にこうした文化の力を活用するための仕組みづくりを進めます。
- 多彩な文化活動は、豊かな人権文化の創造にもつながります。誰もが文化活動を通じ、自分らしさを豊かに表現できるような社会づくりを進めます。



(公募展「現代アートの世界に輝く新星発掘プロジェクト」最優秀賞)



(「大阪府障がい者芸術・文化コンテスト2012」グランプリ)

⑧「未来を担う次世代の育成」～子どもの心に感動を！

- 文化が子どもを育てます。ハッとするような一流のアーティスト、クリエイティブな人々との出会い、本物に触れた感動、魂を揺さぶる体験は、心の滋養となって、豊かな感性や創造性を育み、自己表現力やコミュニケーション力を高め、将来の夢や希望につながっていきます。また、地域と連携した体験活動や、歴史・文化等に関する学校での取組みの充実は、歴史や伝統・文化を尊重する心を育みます。
- そのため、前計画のもと着実に進めてきた次世代育成をさらに推進し、できるだけ幼少の時期から文化に親しみ、子どもたちの発達・成長段階にあわせて、参加・表現する機会をより提供できるよう努めます。
- 未来を担う次世代育成へ確実につなげるため、専門家の見識を活かしながら、創意に満ちた斬新な取組みや民間の自立的な活動をサポートする仕組みを検討します。



(輝け！子どもパフォーマー事業)



(芸術文化振興補助金対象事業)



(大型児童館ビッグバン事業)

⑨「文化振興への府民意識の醸成」

- 大阪の文化の活性化のためには、文化の主役である府民一人ひとりが文化に接し、その魅力を発見、認識することで、文化・芸術に興味、関心を持ち、文化活動へ継続して参加できるようになることが重要です。
- 府民がより文化の振興に関心を深め、自主的な活動を積極的に展開できるよう、様々な文化活動の情報を発信するなど、文化に触れる機会をより多く提供していきます。
- あわせて、市町村や民間の文化施設、大学などとも連携し、府民の文化活動を促進していきます。



(阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット「公開講座フェスタ2012」)



(なにわなんでも大阪検定 御堂筋でのクイズラリー)

V 推進に向けて

行政の役割

大阪府は、民間の力を最大限に活かし、府民やアーティストなどの自主性、創造性が発揮されるよう、大阪市との事業の融合・統合・連携を一層推進しながら、広域自治体として、次の役割を果たします。

<文化振興における大阪府の役割>

行政活動の基本領域

行政は公益性が高いが収益性が低いため民間が取り組むことが難しい部分を担います。

他は民間の自主的な活動に委ねるべきですが、行政は民間の自主的な活動について、自立性・経済効果がより高まるよう促します。

文化行政の視点

文化は行政が意図的に造り出せるものではありません。行政は、主役である府民、アーティストやデザイナー、パフォーマーなど多彩なクリエイターの創造性が発揮され自主的な文化活動が活発に行われるようサポートに努めます。

また、育まれた多彩な文化を貴重な社会資源ととらえ、観光、まちづくり、教育、福祉などあらゆる施策に活用していきます。

広域自治体としての府の役割

大阪府は主に、広域的視点から行うべき都市文化政策や、文化の創造・活動基盤の整備、市町村や民間に対する情報提供やコーディネートでの役割を担います。

大阪市の事業との融合・統合・連携を図り、文化施策のさらなるパワーアップをめざします。

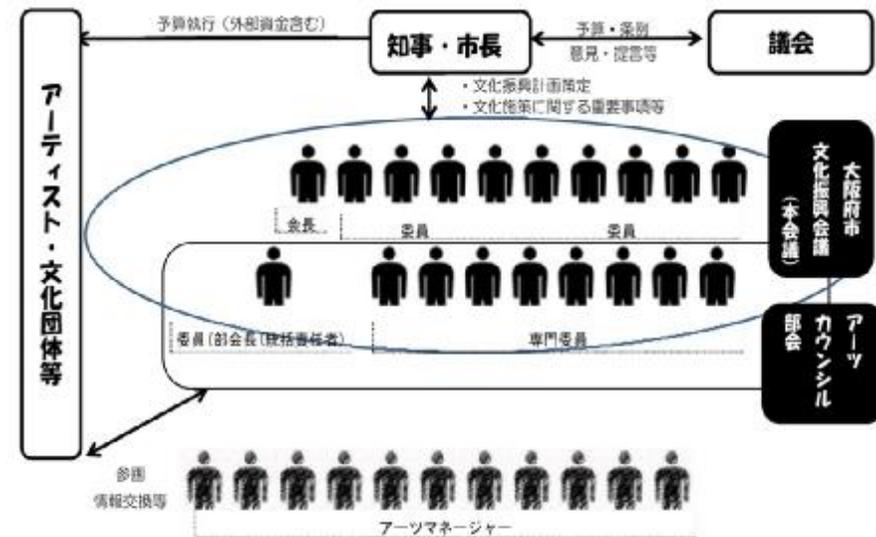
評価・推進体制

文化施策を推進する新たな仕組みとして、行政と一定の距離を保ち、芸術文化の専門家等による評価・審査等を行う「アーツカウンシル」を平成25年度から導入します。

大阪府市の文化施策を統一的に推進し、パワーアップを図るため、府市文化振興会議の部会としてアーツカウンシルを設置し、専門性、透明性、公正性の確保を図ります。

アーツカウンシルによる評価を踏まえ、文化施策の改善、見直しを継続的に行い、施策の「PDCAサイクル」を効果的に展開していきます。また、文化施策に関する調査研究を行い、斬新で意欲的な施策や事業の企画立案につなげていきます。

さらに、多くのアーティスト等がアーツカウンシルの活動に参画することにより、民間の文化活動の活性化を図るとともに、大阪にふさわしい文化行政の展開につなげていきます。



評価指標の検討

本計画に盛り込まれた個々の施策が、どのような効果を上げているかについて、府民が実感したり、現に体験した文化活動や施設利用実態等に即した指標を設定し、その指標を測定し、公表します。

これらの指標を参考にしつつ、文化振興会議やアーツカウンシルにおける検証・評価や提案を踏まえ、施策の改善や見直しにつなげていきます。

あわせて、施策が与える様々なインパクト（波及効果）について評価できるよう検討します。

【評価指標（例）】

※数値は平成25年1月アンケート結果

【インパクト評価指標】

<都市魅力の向上や、場の提供、文化への愛着>

- ・公共空間など、作品の展示場所が十分に提供されている 32.3%
- ・自主的な芸術文化活動のための場の提供が充実している 26.0%
- ・身近な地域に、大阪らしい文化や伝統が根づいている 39.7%

<文化を支えるボランティア活動などへの参加>

- ・ボランティア活動など、文化に関する集団活動に参加したことがある 25.4%
- ・自ら芸術的な活動したり、美術や工芸などの創作活動を行っている 29.0%
- ・大阪で、絵画やアート作品など芸術鑑賞をしたことがある 43.6%

<次世代による文化芸術施設の利用などの経験>

- ・お子さんが、美術館、音楽ホール、映画館など文化施設を利用したことがある 77.2%
- ・小中高生が地域の美術館やコンサートホールを利用しやすいよう工夫されている 31.1%
- ・小中高生が文化活動を発表できる場が十分に提供されている。 37.7%

- ・経済波及効果
- ・社会への影響
- ・他地域とのつながりの増進
- ・他の文化団体とのネットワークの広がり
- ・会場スタッフから見た来場者等の反響
- ・事業関係者による感想など